

「 自然災害への意識 」

広島県 坂町立坂中学校 3年 <sup>おくだ</sup> <sup>ももか</sup> 奥田 桃和

皆さんは日頃様々な場所で起こっている災害についてどのように考えていますか。私は最初、ニュースなどで災害について報道されていてもあまり深くは考えていませんでした。また、自分には関係のないものだと考えていました。しかし、様々な体験をしたことによってその考えは大きく変わりました。

一つ目は防災出前講座でのことです。私はとても衝撃を受けたことがあります。それはパワーポイントで「土砂災害の危険が一番多い県はどこだ」というクイズを出されたときでした。いくつか選択肢があり、その中には広島もありました。しかし私は山が多そうだという理由で長野県にしました。クイズの答えは広島県でした。私は、自分が住んでいる県が一番土砂災害が起きやすいなんて考えたこともなかったので驚きました。そして今までひとごとのように考えていた自分がとても危険な考えをしていたことに気がつきました。そしてその後、自分の住んでいる場所のハザードマップを班ごとにつくりました。私は住んでいる家が土砂災害のおこりやすい場所で、一番近い避難所から一キロメートル以上も離れていたことを知りました。私は急に怖くなりました。もし、土砂で家が流されたら。土砂に自分がのみ込まれてしまったら。私はそうならないためにも災害についてもう一度考え直す必要があると思いました。そして私は家に帰ってそのことを母に話しました。すると、

「もし災害がおきたときに家族で集合する場所覚えてる？」

と聞かれました。私は昔話したことを思い出しました。小学生の時、避難訓練の避難場所だった三部の公園に集合しようと話し合ったことを。私は定期的に話し合っどどこに集合するか確認することが大切だと思いました。

二つ目は、土木建築局砂防課の方からお話をうかがったことです。私が驚いたのは、昔、坂町でも大規模な土砂災害などがおこっていたということです。災害時の写真を見たとき、今までひとごと感じていた災害がとても身近に感じられました。そして、以前、祖母から聞いた話を思い出しました。何年前か、私が小学生の頃、大雨警報が出て学校が休校になった時

「すごい雨じゃね。土砂崩れがおきんといひけど。」

と祖母がいました。私はとても驚いて、

「そんなおきんよ、山から遠いんだし。大丈夫よね。」

と言いました。すると祖母が、

「何言っとなね。植田でも昔土砂災害があったんよ。桃和の友達の家の方まで土砂が流れていったんじゃけ。」

と、言いました。その友達の家とは、山から五百メートル以上離れた場所にあり、当時の私は少し半信半疑でした。しかし、今回の話を聞いて、本当にひとごとには感じられないと思いました。

三つ目は、役場の民生課長さんからもパネルディスカッションでお話をうかがったことです。課長さんは以前、土木建築局砂防課の方から東日本大震災の実情を聞いて、避難されている大変な方のために何か役に立ちたいと思うようになられたようです。しかし、ただ適当に必要なと思われるものを入れるだけではだめだとわかったそうです。その物資が必要になった時、何がどこにあるかきちんと分かるように、マジックでしっかり書くことなど工夫が必要なのが課長さんのお話から分かりました。そして、自分の身を守るだけでなく、実際に被災されたかたへの心配りも大切だと感じました。

四つ目は、防災訓練を実際自分で行ったことです。今まで私たちは大人の人に「守られる」側だったけれど中学三年生になり「守る」立場に変わってきています。七月七日、実際に小学二、三年生を対象にした避難訓練を行った時は、事前に準備を行いました。そのため、小学生も何の不安もなく過ごしていたと思うけれど、本当の災害がおきたときにはそうはできません。突然おこる災害の中でどのようにして小学生の不安を取りのぞいていくかが大切だと思いました。

私は、これらの体験を通して今までひとごと感じていた災害も身近なものだと分かりました。実際に七月に入り島根県、福岡県、大分県で大雨特別警報が発令され、大規模な災害がおきています。このようにいつおこるか分からない災害から自分の身を守り、中学生という立場から少しでも安心することのできる避難所をつくり、地域を支えていくことが私たちに求められていることだと感じました。